

西濃圏域 各医療機関の2026年に向けた対応方針【①今後の方向性】

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
1		医療法人社団豊正会大垣中央病院	大垣市	【現状、特徴】 2次救急病院としての役割とポストアキュート・サブアキュートとの連携とリハビリ強化による在宅復帰もしくは施設への復帰 【課題】 1次医療⇒2次医療⇒3次医療という医療の流れが出来ていない地域であるので地域として確立する必要がある	回復期としての役割(稼働率) 2次救急病院として救急の受入れと時間外の受入れ 人間ドック・健診事業の強化 外来の強化	実施済み	実施済み					①令和2年8月に療養病床(慢性期)20床を一般病床(回復期)に転換 現在一般病床60床(内地域包括ケア32床)すべて回復期病床 ②令和2年8月に療養病床5床を削減 65床⇒60床
2	変更	医療法人徳洲会大垣徳洲会病院	大垣市	【現状、特徴】 脳神経外科、整形外科、循環器内科に加え、新たに心臓血管外科が充実しており、高度急性期にも対応可能、2次救急にも力を入れており、年間約4,000件を受け入れている。地域の災害医療に貢献できるよう72時間電源供給が可能。 【課題】 内科、産婦人科、小児科の体制強化を検討している。後方支援施設を所有していない。医師の働き方に則った医師数を確保することで、質の高い医療を目指す。	2次救急受け入れ施設として、要請にはできるだけ断らない体制づくり。 災害に診療が継続可能な体制づくりを目指す。	○						地域医療構想策定ガイドラインの医療需要の考え方に則り、日当円が3,000点以上の病床を高度急性期と捉え、将来的に既存のHCUをICUへ切り替え10床にし、一般病床30床をHCUとする方針です。
3		医療法人社団正和会 馬淵病院	大垣市	—	—							—
4		大垣市民病院	大垣市	【現状、特徴】 西濃医療圏の中核基幹病院として、高度で専門的な医療施設や医師・歯科医師臨床研修病院の環境を整備している。二次医療圏唯一の救命救急センターの運用や、地域がん診療連携拠点病院、地域災害拠点病院、岐阜県地域周産期母子医療センター、小児救急医療拠点病院等の指定等を受け、質の高い医療を提供している。 【課題】 医師を安定的に確保するため、地方都市にある本院が研修医に選ばれる病院になり、いかに医師に定着してもらえるかが課題です。また、老朽化する施設に対し求められる医療機能に応じた計画的な整備が必要です。	西濃医療圏の高度急性期・急性期医療、特に救命救急、災害拠点、がん拠点、周産期、小児救急等の中心的役割を担います。		実施済み					令和4年11月1日に急性期機能病床を86床削減した。
5		名和病院	大垣市	【現状、特徴】 「信頼される病院を目指して」を基本理念として、明るい医療・安心してかけられる医療・親身になって尽くす医療・負担のかからない医療を四本柱として努力しております。 【課題】 看護師・ヘルパーの確保が急務であるが、苦戦している現状である。又、建物・設備等老朽化しており随時対応していますが、建て替え等検討が急務である。	地元に密着した医療に注力するとともに、急性期医療後の回復期・慢性期の病院としての役割(看取り)のが求められている。						○	建物・設備等の老朽化に対する方針が決定していない。
6		大垣病院	大垣市	【現状、特徴】 院内の精神科部門や他院からの身体疾患慢性期患者様の治療を中心に主に慢性期治療の病棟運営をしている。 【課題】 新型コロナウイルス感染症患者への対応をするようになり、スタッフのスキルアップや病棟の装備等、根本的な病棟運営の見直しをすることが必要となった。	院内における新型コロナウイルス感染症発症患者への対応及び回復患者への継続治療対応などを求められている中で、回復期から急性期までの幅広い患者への対応を見据えた病棟運営を考えていく。	○						院内における新型コロナウイルス感染症発症患者への対応及び回復患者への継続治療対応などを求められている中で、回復期から急性期までの幅広い患者への対応を見据えた病棟運営を考えていく。

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
7		海津市医師会病院	海津市	【現状、特徴】 海津市唯一の一般病院として、急性期から、サブアキュート、ポストアキュートまで幅広く対応している。地域医療の拠点として、地域のニーズに合わせた医療提供を心掛けている。 【課題】 急性期、回復期だけでは十分なニーズにこたえているとはいえず、慢性期・医療依存度の高い要介護者への対応も含めて検討する必要がある。	急性期・回復期の対応はもちろんのこと、医療依存度の高い要介護者への対応も必要と考える。	○		○	○			①について、地域の状況を見極めつつ、急性期から慢性期を広く対応できる体制へ。具体的な時期は未定。 ③について、地域に求められる診療体制、医師の専門性を活かした役割を担う。 ④について、医師会病院の特性を最大限活用し、地域の診療所と連携し、日常外来診療を診療所をお願いし、入院及び検査を当院で行うなどの役割分担をする。 いずれも構想であり、具体的な時期は未定です。
8		岐阜県厚生農業協同組合連合会 岐阜・西濃医療センター 西美濃厚生病院	養老町	【現状、特徴】 ・当院は西濃圏域の西南濃地域の医療を担っており、養老町を中心に、大垣市西南部・海津市北部からの患者の受け入れを行っています。 ・令和5年10月に診療・病床機能の再編を行い、回復期(105床)・慢性期(35床)・介護医療院(56床)として運営しています。 ・当院は、回復期、慢性期及び在宅医療等に積極的に取り組みます。また、高度・専門的な手術および外来診療が必要な場合には、三次医療機関(基幹病院)との連携を図り対応します。 【課題】 ・令和5年10月に診療・病床機能の再編を行った結果、常勤医師11名(歯科医師1名含む)となり、整形外科においては医師派遣がなく休診、外科、麻酔科は非常勤医師での対応となった。また、常勤医師の高齢化・非常勤診療科の増加に伴い救急医療体制の維持による医師の負担が増加するなど、医師の確保が急務となっています。	・西南濃地域の医療・介護需要を見据えて、回復期・慢性期、介護医療院を中心とした医療・介護提供体制を担う。 ・次の役割を担うべく取り組む。 「地域に必要とされる診療体制の維持」「救急医療の体制の維持」「災害時の医療提供体制の維持」「地域医療機関等との連携の推進」「予防医療の促進」「地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みの推進」「新型インフルエンザ等特別措置法に基づく指定公共機関としての体制の確保」「鳥インフルエンザ、CSF(豚熱)、新型コロナウイルス感染症対応の体制確保」	実施済み	実施済み		実施済み			・西濃医療圏にある当院(養老町)と揖斐厚生病院(揖斐川町)の病床再編を段階的に行い、令和5年10月に大野町に急性期・回復期を中心とした新病院を開院した。 ・当院は、第一段階として、令和2年4月に慢性期病床の一部を介護医療院へ機能転換、令和5年10月より、当院の急性期病床は新病院へ移床させ、西南濃地域の医療・介護需要を見据えて、病床機能を回復期(105床)・慢性期(35床)・介護医療院(56床)とした。
9		博愛会病院	垂井町	【現状、特徴】 医師や看護師の不足により6つある病棟のうち1病棟を閉鎖せざる得ない状態であり患者数が減少している 【課題】 常勤医師の不足 看護師の不足 病院スタッフの不足	高齢化地域における急性期及び慢性期医療の拡充、改善を目指す	○	○	○				メジャー診療科(内科・外科)の常勤医の補充、手術が可能な医療体制

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
10		岐阜県厚生農業協同組合連合会 岐阜・西濃医療セ ンター 西濃厚生 病院	大野町	【現状、特徴】 当院は、西濃圏域北部地域唯一の総合診療機能を有する病院です。3次医療機関との連携を前提に、急性期から回復期・在宅医療、予防医療と地域の中核病院として切れ目のない医療を提供しています。 【課題】 非常勤診療科の常勤化および医師一人診療科の複数医師の確保により、継続的に充実した医療を提供すること。	限られた医療資源のなかで「地域完結型」の医療を提供する役割を担います。また、西濃医療圏北部の医療需要に応えるべく、高齢化が急速な勢いで進むなかで、患者の利便性も踏まえた医療提供体制の確保も当院の重要な役割です。 ・4疾病への取り組み ・救急医療への取り組みと提供体制の確保 ・へき地医療拠点病院としての役割 ・地域医療機関との連携 ・地域包括ケアシステムにおける中心的な役割 ・災害時の医療提供体制の維持、確保 ・予防医療の促進 ・医師確保を含む診療体制の維持	実施 済み	実施 済み	実施 済み	実施 済み			令和5年10月に西美濃厚生病院との病床再編により、揖斐郡大野町に「西濃厚生病院」として新病院を開院しました。31診療科を標榜、病床数は400床で、一般急性期293床、回復期リハビリ病棟41床、地域包括ケア病棟41床、西濃医療圏で初となる緩和ケア病棟25床を設置し病床機能を高めます。また、最新の設備と医療器械の導入、放射線治療、ロボット手術など新たな治療にも取り組み、診療機能を充実させます。 さらに、災害拠点病院としての役割を担うことで関係機関・行政と連携し、災害時の医療提供体制を確保します。
11	変更	新生病院	池田町	【現状、特徴】 一般病床のうち25床は地域一般入院料2を算定しているが、当院は二次救急指定病院であり一部濃厚看護が必要、また高次機能病院からの転入患者、近隣施設からの直接入院患者受け入れについても濃厚看護が必要となるケースが多い。 【課題】 現状における問題点に対応し急性期治療における濃厚看護を安定的に実践するため看護配置を高めることが必要となっている。	地域のかかりつけ病院としての機能を維持しつつ急性期治療を安定的に担うことができる病院としていくことが必要	○			実施 済み			一般病床51床のうち地域包括ケア病床26床、地域一般病床25床の構成であり一般病棟全体の病床機能は回復期、但し急性期治療を担う一般病棟のうち25床を急性期一般入院基本料とし10対1看護配置で対応する方針 変更予定日：令和7年7月1日
12		市川外科	大垣市	【現状、特徴】 40年地域のかかりつけ医としての役割に加え、2016年からは新たに乳腺科、婦人科、皮膚科など女性のための検診、診療に力を入れている。がんの終末期に緩和ケアが必要な患者さまの入院受け入れを地域病院と連携しながら積極的に行っている。 【課題】 さらに専門的な医療を提供できるような体制を整える。緩和ケアにおいて患者が過ごしやすいような入院環境を整える。	女性のための検診、医療、健康を提供する。緩和ケアが必要な患者さまにおいて、在宅療養、入院を積極的に受け入れる。			○				③乳腺外科について手術の提供を予定
13		クリニックママ	大垣市	【現状、特徴】 ・不妊治療 ・産科婦人科 【課題】 人員確保	・不妊治療による出生数の増加 ・分娩場所の確保						○	満床になることがあり、本来は病床を増やした方が良いと思いますが、診療所は19床以上増やせないため現状維持となります。
14		近藤眼科医院	大垣市	【現状、特徴】 外来患者中心 【課題】 なし	外来中心の地域医療の充実		○					約5年以内に削減予定検討中
15		森外科医院	大垣市	【現状、特徴】 岐阜県唯一の肛門専門施設として、手術まで行っている。療養病床は看取りや在宅での介護困難などを受け入れている。 【課題】 診療報酬が低く、経営不安定 看護師、補助員などスタッフ確保困難	肛門専門医院としての専門性を高め取り組んでいく。						○	今のまま特に変更する必要性を感じない。

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
16		稲川耳鼻咽喉科	大垣市	【現状、特徴】 地域のかかりつけ医として、プライマリーケアを提供 【課題】 職員の確保	現状を継続していく						○	現状は入院患者無く休棟状態ではあるが、今後の不測の事態に備え、当面は病床数を維持していく予定。
17		もりレディースクラブクリニック	大垣市	【現状、特徴】 他地域の閉院に伴う分娩数の増加 【課題】 医師不足と高齢化	検討中。 分娩数が増加してきているが、医師不足と高齢化により対応が難しいことから、今後当院で担うべき役割を検討していく。						○	今後、当院で担うべき役割を検討中のため
18		むらいクリニック	大垣市	【現状、特徴】 睡眠時無呼吸症候群やその他睡眠障害の診断のための終夜睡眠ポリソムノグラフィー検査を中心に行っている。 【課題】 人員不足あり、補充することにより医療の充実をはかる。	睡眠は多種多様の疾患と関連があり、精神身体に影響を与える。睡眠の状態の評価を行うことにより治療を行い社会に貢献する。						○	主に検査(終夜睡眠ポリソムノグラフィー検査)を行っており、治療や療養目的の入院施設ではない。
19		奥田整形外科	大垣市	未回答								
20		大垣整形外科	大垣市	【現状、特徴】 外傷、成人及び小児慢性疾患等の整形外科疾患に対して、保存的治療、手術加療を行っております。3人の整形外科専門医が診察、画像診断、様々な検査を駆使し迅速な診断、治療を行い患者の社会復帰、生活改善を図っております。 また、患者の状態に応じて2次、3次医療機関への患者紹介や、整形外科以外の疾患に対して近隣の診療所への患者紹介、治療終了後は逆紹介を受けるなど地域の医療機関との連携を行っております。 【課題】 新型コロナウイルスの蔓延によって、新興感染症に対する診療体制の改善が必要となりましたが、十分な設備投資、物品確保、人員確保が難しい状況であります。しかし、可能な範囲で対応を検討しております。	2025年の超高齢化社会に向けて、当院としても高齢者の外傷、慢性疾患への対応が増加すると予測されます。治療終了後の介護への速やかな橋渡しをするため、これまで以上に医療担当者、家族、介護担当者との連携を図る必要があると考えております。 2025年の超高齢化社会の到来と共に生産年齢人口減少が危惧されております。当院では患者が早期に社会復帰し、健康を維持できるよう医療提供する必要があると考えております。						○	高齢者の圧迫骨折、下肢の骨折、上肢の骨折が増加しております。2次・3次医療機関では対応されないが、自宅での生活が不可能な高齢者にたいして入院加療を継続する必要があります。入院することで、患者、患者家族では不可能な疾患の管理、ギプス管理を専門的に行い、機能回復のためのリハビリを行っております。このように対応することで病状悪化を防ぎ、確実に機能回復が得られております。また、2次、3次医療機関では入院の必要がないと判断されたが、自宅では疼痛コントロールが不可能な脊椎疾患、関節炎に対して、当院では入院による治療や、リハビリ介入が可能です。いずれも患者の健康を回復するために必要な病床であると考えております。
21		小坂井レディースクリニック	海津市	【現状、特徴】 地域医療を中心に診療していく予定である 【課題】 出生数の低下により小児の受診は少なく婦人科及び老人医療に方向転換をする予定である	健診医療及びワクチン接種を充実させていく方針						○	後継者の判断により今後を決める
22		関ヶ原クリニック	関ヶ原町	【現状、特徴】 急性感染症・めまい等短期入院 在宅医療の充実 【課題】 医師・看護師不足より、短期間の入院なら対応可能であるが、数日間の入院となれば、外来・在宅医療もあり入院シフトが組みにくい。	関ヶ原町では、病院の閉鎖及び病院から有床診療所への縮小があり、診療科及び病床が激減した。今後も在宅医療を充実させ、急性感染症・めまい等の入院は維持していきたい。		実施済み				○	②令和4年7月 急性期病床18床から5床に削減 ⑥入院を行いたいのが外来・在宅医療もあり、慢性的な医師・看護師不足より対応が出来ていない。

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
23		国保関ヶ原診療所	関ヶ原町	【現状、特徴】 国保関ヶ原診療所は「地域住民の健康と福祉を守り、心の支えとなる診療所を目指す」という理念のもと、地域住民の健康と安全安心を守るため、関ヶ原町を中心とする住民および家族の皆様に医療を提供し、信頼に応えるべく努力して参りました。しかしながら、医師の地域偏在に伴う医師不足、診療報酬の引き下げ、地方交付税の減額による自治体の財政悪化など、自治体病院を取り巻く環境が厳しくなり、病院から診療所へ転換後も経営状況が厳しい状況であり、また、昨今の慢性的な医師不足、看護師不足により、わずか19床である現在の病床規模の維持すらも難しく、経営環境はますます厳しくなっています。 【課題】 一番の課題は慢性的な医師不足、看護師不足が大きな問題となっており、現在の人員体制および病棟構成では損益を大幅に改善することが困難な状況になっています。また、現状において看護師の確保策がなく、病棟の維持が困難となったこと及び町からの繰入金が増額が困難なことから、事業規模の縮小を含めた抜本的な構造の見直しも今後必要になってくると思われる。	岐阜県の地域医療構想では、当所の位置する西濃医療圏は病床過剰地域であり、2025年にかけて急性期病床・慢性期病床の縮小、在宅医療の充実が求められています。このような状況から、当所としては平成29年度に病院から有床診療所への転換したことから、在宅医療の充実を図り、関ヶ原町の地域包括ケアシステムの実現に向けた取り組みを今後も引き続き行っていかななくてはならない。		実施済み				○	当所としては平成29年度に病院から有床診療所への転換により病床数を大幅に減らしており、現状において看護師の確保策がなく、病棟の維持が困難となったことにより現在は休床となっているため。
24	変更	田中医院	神戸町	【現状、特徴】 地域医療 在宅医療 【課題】 スタッフの確保	女性ならではの目線を生かして地域医療に更なる貢献をしていく						○	現在入院病棟は休棟中であり、2027年中に廃止予定としております。
25		高田医院	神戸町	【現状、特徴】 ・婦人科を中心とした内科的診療、院内助産 ・子宮がん検診、特定検診、ワクチン接種、産後ケアへの参加 【課題】 ・以前分娩を扱っていた為、現状の建物施設をどのように維持するかが課題	・誕生から老年までを幅広く、婦人を中心として地域医療に貢献したい		○					② 急性期病床2床を廃止し、病児保育施設と治療機器設置スペースに転用
26		黒川胃腸科外科クリニック	神戸町	【現状、特徴】 看取り方の受け入れ等 【課題】 需用が多く対応しきれっていない	現状の維持						○	もともと5床の一般病床と14床の療養病床だったが、療養病床は介護医療院へと転換したため、地域の方の一般病床の需要にこたえるため一般病床は維持
27		山中ジェネラルクリニック	安八町	【現状、特徴】 隣接されている特養の利用者や地域の方の急性期、慢性期、回復期分野の病床機能に重きを置いている。高度急性期患者については連携病院へ紹介し、ターミナルケアやリハビリを目的とした入院等も行っている。 【課題】 病床稼働率の不安定性あり。また、医師や看護師等の人員確保が課題である。	地域唯一の有床診療所、救急対応診療所として現状維持に努めていきたい。そのためには、課題である医師・看護師等の人員確保を克服していき病床稼働率を安定化させたい。また、連携病院との連携を今後も行っていきたい。						○	当院の役割を明確にして連携病院と入院調整を行っている。また、専門医を非常勤であるが配置し、5疾病に対応できるようにしている。医師・看護師等の人員確保するための対策を継続して行っている。
28		いびレディースクリニック	揖斐川町	【現状、特徴】 地域の分娩を担う。乳幼児の予防接種、診療を担う 【課題】 特になし	地域の分娩を担う。乳幼児の予防接種、診療を担う						○	担うべき役割に変更がないため。

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2026年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
29		小林医院	揖斐川町	【現状、特徴】 急性症状や、泌尿器の生検等での検査入院等を想定し、 病床を用意しているがここ数年は入院はない 【課題】 入院が必要な患者がいない	入院が必要となる患者に対し引き続き病床を整備していく						○	近年入院が必要な患者はいないが、 今後泌尿器系の患者の増加が見込まれることを想定し病床を維持する
30	変更	社会福祉法人新生会サンビレッジ新生苑	揖斐郡	【現状、特徴】 休棟中	必要な時に再開できるよう準備しておく						○	
31		小森眼科	大野町	【現状、特徴】 高齢化に伴い、白内障の患者様が多くなり、手術は白内障 中心に日帰り手術を行っている。 【課題】 緑内障でも点眼でコントロールできなく悪化していく場合 は、岐阜の緑内障専門の病院に照会することになる。	高齢化による白内障手術をする患者様が多くなり、地域住民のためさらに手術を施行していく予定である。						○	世の中の流れは人口減少に拍車がかかっているが、当院としては現状維持が出来るようにしていきたい。
32		まつばら眼科	池田町	未回答								